

# 経済マンスリー [原油]

## 原油価格は急落するも、EU 禁輸措置を控えて生産は高水準維持

原油価格（WTI 期近物）は 5 月以降、急落している。5 月 1 日は良好な米経済指標を受けて 106 ドル台をつけたが、その後は、スペイン銀行問題やギリシャのユーロ圏離脱を巡る懸念といった欧州債務不安の高まり、米雇用統計の悪化等、売り材料が相次いだ。6 月に入り中国の利下げが好感されたことから、原油価格はいったん反発したが、根強い欧州債務不安を背景に下落傾向を辿り、6 月 13 日には 82 ドル台と昨年 10 月以来の安値となった。17 日のギリシャ再選挙の結果は好感されたものの、スペイン財政不安が払拭されない中、原油価格は軟調に推移している。

石油輸出国機構（OPEC）は 6 月 14 日の総会で、生産目標を日量 3,000 万バレルで据え置くことを決定した。財政上、原油高を望むベネズエラやイランは減産を求めたと伝えられているが、減産合意には至らなかった。

現行の生産目標は昨年 12 月に決定されたが、制裁の影響によるイラン減産分を補うべく、サウジアラビア等湾岸産油国が高水準の生産量を維持しているのに加え、リビアとイラクの生産が回復していることから、OPEC 全体の生産量は目標を上回る水準が続いている（5 月：日量 3,186 万バレル）。年初以降、イラン減産に伴う供給不足懸念が強かったが、世界の原油需給バランスは需要鈍化も相俟って 1～3 月期に供給超過に転じており、実際には供給不足は生じなかった（第 2 図）。

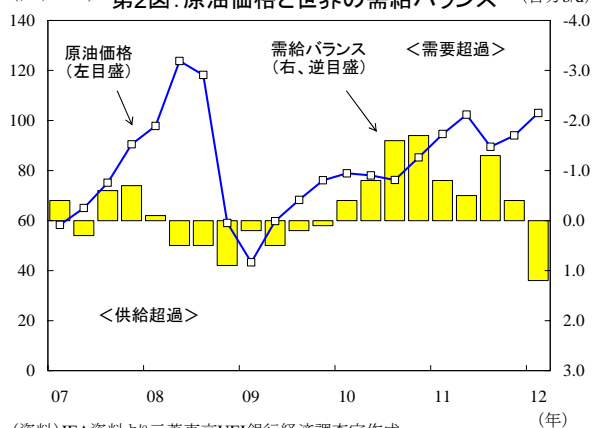
こうした供給超過は原油価格の押し下げ要因となろうが、一方で 7 月からの欧州連合（EU）のイラン産原油禁輸措置により、供給懸念が再燃し、原油価格が大幅に上昇する可能性が残されている。EU 禁輸措置の影響を見極めるため、当面サウジアラビア等の湾岸産油国は高水準の生産を維持するとみられる。

(ドル/バレル) 第1図:原油価格(WTI期近物)の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(ドル/バレル) 第2図:原油価格と世界の需給バランス (百万b/d)



(資料) IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 矢口 満 mitsuru\_yaguchi@mufg.jp  
篠原 令子 reiko\_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。